

議会から届けた皆さんの意見・要望に市長から回答がありました

前号(2月1日発行)でお知らせしておりました市長への意見・要望(議会報告会や決算特別委員会、まちづくり・活性化特別委員会の議論をまとめたもの)に対して、次のとおり市長から回答がありました。

前号の記事は、
こちらで見れます



議会報告会での 意見・要望への回答

避難所については

○避難所の配置や運営は、地域の意見も聞いて決定していく。また、地震、津波、大雨などの災害種別に対応した避難所が分かるようにしている。

○多目的トイレについては、施設管理者と協議を進め、当面は組み立て式の多目的トイレを備蓄して対応する。

○災害物資の備蓄は、保管場所の確保に限られる施設もあるが、避難者数の実績を踏まえ配備を進める。

避難対策については

○今回の災害を踏まえ、様々な避難方法を想定した訓練内容を地域と一緒に検討している。

○早期避難を徹底し、要配慮者に応じた避難支援ができるよう、地域全体で体制を構築することが必要。地域住民だけでなく事業所や施設等の協力を求めて、地域の防災活動の支援に取り組む。

○災害情報の発信については、被害や避難所の避難者数の状況等をいち早く発信できるシステム導入に取り組んでいる。また、これまでのSNS等での情報発信に加え、テレビの文字放送を活用した地デジ広報導入にも取り組む。

浸水対策については

○「大牟田市令和2年7月豪雨災害検証委員会」の提言も踏まえ「排水対策基本計画」を策定し、河川や水路の対策を進める。改修費が高額となるため池や井堰など農業用施設の改修・改善も計画的に調査・改修に取り組む。

○白川排水区の大黒町ポンプ場は老朽化が著しいため、白川ポンプ場が建設中で来年度に供用開始する。

○7月豪雨で被災した三川ポンプ場の建て替えは、災害復旧工事で行うこととしており、基本設計を行っている。各ポンプ場の設備についても、点検・調査を計画的に進めていく。

決算特別委員会での意見・要望への回答

小中学校トイレの洋式化については

○令和2年度末の校舎の洋式化率は63.4%、体育館は76.7%であり、令和5年度の目標値66%(校舎)の早期達成を目指して取り組む。また、体育館も学校の実態に合わせて進めていく。

学校特別教室・体育館への

空調(エアコン)整備については

○未設置の特別教室に計画的な整備が図れるよう取り組んでいく。体育館への設置は大きな財源が必要となるため、国の有利な財源について調査していく。

まちづくり・活性化特別委員会からの意見・要望への回答

若者の地元企業への就業、定住の促進については

○これまでの取組に加え、荒尾市と連携し取り組む「地元企業と学校の情報交換会」の実施や、企業紹介冊子の作成、オンライン会社説明会等の実施を予定している。企業紹介冊子は、高校生や保護者等に配布し、SNS等も使い、広域的にPRするなど、継続的に地域企業と求職者のマッチングを図り、移住・定住促進にもつながるよう取り組んでいく。

地域資源を活かした生活・子育て環境の充実については

○スクールソーシャルワーカーについては、関係機関との連携を図り、人材の確保に努めていく。また、継続的に確保することが厳しいことから、常勤雇用も選択肢として検討する必要があると考えている。

○学童保育所・クラブについては、待機児童解消や利用時間の延長には支援員の確保が課題となっているため、支援員の処遇の改善と働きやすい環境整備を整えるよう努め、引き続き事業者との協議を進めていく。

健康づくりや健康寿命の延伸につながる取組については

○令和2年2月に生命保険会社と健康増進に関する連携協定を結び、健診等の受診勧奨呼びかけを行ってもらう取組を始めている。健康づくりサポーター制度導入については積極的な地域もあり、協議を進めていきたい。

○「おおむた+Walking」は、ARスポットエリアの追加などの充実を図り、登録者も1,805人(昨年2月より575人増)となっている。さらにキャンペーン商品に地元品を検討など取組を充実していく。